平成26年度における大竹市の決算状況

１　収入及び支出の状況

平成２６年度の一般会計並びに特別会計の決算における収入・支出は，第１表，第２表のとおりです。

一般会計における**歳入総額は，１３２億５，３５０万９，６６０円（対前年度比４．２％減），歳出総額は，１３１億２，７９５万７，９１１円（同比４．９％減）**となり，歳入・歳出決算額とも前年度を下回りました。

形式収支は，１億２，５５５万１，７４９円の黒字となり，翌年度へ繰り越すべき財源３，３８７万９，０００円を差し引いた残額，すなわち**実質収支は，９，１６７万２，７４９円**となりました。

（１）歳入の状況

財源の根幹となる市税は，法人市民税が約９２３万円増加したものの，固定資産税が約８，２１１万円，個人市民税が約８７１万円減少したこと等により，**市税全体では約７，０８２万円（対前年度比１．３％）の減**となりました。

また，地方交付税は約１億７，１８４万円（同比１４．７％）の増，国庫支出金は約２，９８８万円（同比１．４％）の減となりました。

市債は，臨時財政対策債や建設事業債の発行はあるものの，玖波駅前広場整備事業の終了等により，１億６，９６６万円（同比８．４％）の減となりました。

（２）歳出の状況

歳出は，「住みたい，住んでよかったと感じるまち」をまちづくりのテーマとした第五次大竹市総合計画「わがまちプラン」のもと，「大竹市が笑顔や元気がかがやいているまち」になるよう，次の事業に取り組みました。

① 大竹を愛する人づくり
② 生活基盤が整ったまちづくり
③ 安全なまちづくり
④ 安心できるまちづくり
⑤ 心にゆとりを感じるまちづくり
⑥ 行政・社会の仕組みづくり
⑦ 住みたい，住んでよかったと感じるまち

① 大竹を愛する人づくり

大竹を愛する人を育てることは，大竹が好きな人をつくることであり，まちづくりに自覚と責任が持てる人を増やしていくことでもあります。これがまちづくりの推進力となるという視点に立ち，事業を実施しました。

具体的には，児童，生徒及び教職員にとって居心地がよく，新たな知識の発見や学びが創出できる学校づくりを目標に，読書活動推進員を配置した「**読書活動推進事業**（事業費１３５万円）」や玖波小学校の校舎改築に係る基本設計及び実施設計，講堂（体育館）の耐震補強に係る実施設計を実施した「**玖波小学校施設整備事業**（３，５３６万円）」などを行いました。

② 生活基盤が整ったまちづくり

人が「ここに住もう」と決定する際に最初に考えるのは「そこに働く場所があるか」，「働く場所からどれくらいの距離があるか」という生計に関連したことや，基本的なまちの機能である生活環境についてではないかという観点から，事業を実施しました。

具体的には，商店街地域の安心安全なまちづくりを推進していくため既存の街路灯などをＬＥＤ化し，街路灯を増設した事業に補助金を交付した「**大竹市商店街街路灯ＬＥＤ化事業**（事業費５３万円）」やＪＲ玖波駅西口広場の整備，駅舎用地の造成，アクセス道の整備を行った「**玖波駅西口及び玖波３６号線道路改良事業**（９，２５４万円）」などを行いました。

③ 安全なまちづくり

人が「ここに住もう」と決定する際に，次に決め手となるのは「災害や犯罪，事故，火災などに対して，安全が確保されているか」ではないかという考えから，どのようにして市民の安全を確保するかという視点で事業を実施しました。

具体的には，阿多田島で発生した救急患者を搬送する漁船に担架などを収容するために必要な改修を行ったものに補助金を交付した「**救急搬送用船舶改修補助事業**（事業費２７９万円）」や指定避難場所に対応する災害を明記した案内看板の設置や土砂・浸水避難地図の改訂などを行った「**水防体制整備事業**（２５２万円）」などを行いました。

④　安心できるまちづくり

「安全」の次に重要なのは，ライフステージのそれぞれの段階での社会保障制度，つまり，高齢者福祉や児童福祉，医療体制などの充実ではないかと考え，事業を実施しました。

具体的には，保育所などに在籍している児童が病気になった場合や，病気

の回復期にある児童が集団生活に適さない場合に，一時的に保育を行う事業を実施するため，委託先となる広島西医療センターが行った施設整備の費用を助成した「**病児・病後児保育施設整備補助事業**（９２８万円)」や健康診査などを行い様々な疾病予防に取り組んだ「**健康増進事業**（事業費６，５１９万円)」などを行いました。

⑤ 心にゆとりを感じるまちづくり

人が最終的にまちに求めるものは，「ゆとり」や「豊かさ」，「生きがい」など，生活の質の向上ではないかと考え，「生涯を通して生きがいを持ち，活き活きとこのまちで暮らしてほしい」という視点で事業を実施しました。

具体的には，平成３１年度以降に廿日市市と広域連携により可燃ごみ処理をするため，可燃ごみ処理施設等整備事業に要する経費のうち大竹市負担分を負担した「**可燃ごみ広域処理事業**（事業費１，７２７万円)」や市民の健康増進と水泳振興を図るため，小方学園の屋内プールを市民に開放した「**小方学園プール開放事業**（２７１万円)」などを行いました。

⑥ 行政・社会の仕組みづくり

総合計画に連なるすべての施策を実施するには，「ヒト（人的資源）・モノ（物的資源）・カネ（資金)」に代表される地域資源が必要です。「地域資源をいかに有効に使い，実りの多いまちづくりをする」という視点と，健全な行財政運営を推進し効率的で投資的効果の高いまちづくりを目指し，事業を実施しました。

具体的には，市民活動の自主性が向上するよう，市民活動団体が地域の課題解決のため自ら提案・実施する事業を公募し，助成金を交付した「**協働のまちづくり推進事業**（事業費１１７万円)」などを行いました。

⑦ 住みたい，住んでよかったと感じるまち

市外の人が「住みたい」と思い，実際に住んでいる人が「住んでよかった」と感じるまちを目指すことが，「よいまち」の実現につながると考え，事業を実施しました。

具体的には，失業者の雇用対策及び在職者の処遇改善をするため，中小企業経営指導者養成事業として大竹商工会議所に２名，水産物地産池沼推進員養成事業としてくば漁業生産組合に１名雇用しました。また，中小企業の在職者の賃金アップを図るため，大竹商工会議所に委託し，講座を開催した「**広島県緊急雇用対策基金事業**（事業費１，１６０万円）」などを行いました。

※　事業費は普通建設事業費（事務費等を含む）ベースで算定し，整数未満を端数処理しています。